

プレーヤー 音質比較

marantz SA14S1、PM14S1

Marantz から SA15S2・PM15S2 の上級後継モデル、SA14S1・PM14S1 が発売されました。それぞれの回路やパーツ構成は、SA11S3・PM11S3 から引き継がれています。今回はこのモデルを実売価格が比較的近い AIRBOW PM15S2 Master や新製品のベルトドライブ方式 CD プレーヤー CEC CD3N と比較し、さらに Thorens の新型レコードプレーヤー TD206・TD209 を繋いでそれぞれの音を聞いてみました。

テストの概要は、まず SA14S1・PM14S1 を聞きます。次にアンプを AIRBOW PM15S2 Master に変更し、PM14S1 と PM15S2 Master を聞き比べます。アンプを PM14S1 に戻し、CD プレーヤーを SA14S1 から CEC CD3N に変更、CD プレーヤーを比べます。最後に PM14S1 に Thorens TD206・TD209 を接続し、CD プレーヤーとレコードプレーヤー、TD206・TD209 を比較しています。



marantz SA14S1 (写真：上)

希望小売価格 ¥ 240,000

アナログ出力：RCA×1●デジタル入力：USB (iPod) ×1 (前)◆USB (PC) ×1 (後)◆同軸 (RCA) ×1◆光 (TOS) ×1●デジタル出力：同軸 (RCA) ×1◆光 (TOS) ×1●サイズ：W440×H123×D419(mm)●重量：14.5Kg



marantz PM14S1 (写真：下)

希望小売価格 ¥ 240,000

アナログ入力：Phono (MM) ×1◆LINE(RCA)×3、TAPE×2◆Power Direct×1●アナログ出力：TAPE×2◆PRE OUT (RCA)×1●定格出力：90W×2 (8Ω)●サイズ：W440×H123×D457(mm)●重量：18.5Kg

Michael Jackson "Dangerous" 14 曲目 Dangerous



明るく元気が音が前に出ます。上級モデル PM11S3 や前モデル PM15S2 と基本的な音調は似ています。低音は PM11S3 ほど重厚ではありませんが、反応は早く歯

切れ良い音です。10 年ほど前まではやや内気な傾向の音質だった marantz 製品も最近は、とても元気に鳴るようになりました。PM14S1 は前にも増して、元気な音に仕上げられています。

イントロの機械的な騒音はスピーカーの後方に展開します。打ち込みのドラムは左右のスピーカーを結ぶ線上に定位します。伴奏はそれよりもやや後、ボーカルは一步前に出ます。楽器とボーカルは綺麗に分離し、前後左右に偏ることなく均等に広がりました。

音質は歯切れ良く明るいイメージですが、ウォーミングアップ前から感じていた最高音部の僅かなざらつきが少し気になります。また、そのざらつきが超高音を

マスキングするため、アタックの角が若干丸い印象です。もちろん、これは厳しい聴き方でほとんどの場合問題にならないはずですが、ともあれカミソリのように切れる高音ではありません。

中域は厚みがあって暖かく、ボーカルの分離にも優れています。時折、デリケートな表情がほんの少しだけ単調に感じられることがありますが、これも高音の癖が影響していると思います。

低音は力強くグングン前に出ますが、これは今までの marantz のアンプになかった特長です。

明るくカラリとした音で、軽やかに元気よくデンジャラスが鳴りました。



AIRBOW PM15S2 MASTER

Vienna Acoustics
Beethoven Concert
Grand(T3G)

Hilary Hahn" Bach-Concertos" (Hybrid Disk) 1 曲目 ～



・SACD レイヤー

明るく滑らかなサウンドですが、高域の頂点（最高域部）に若干曇りを感じます。CD あるいはアンプ、どちらの癖なのか、もしくはどちらにも同じ癖があるのか？超高域の濁り感が空間に薄く、ベールを掛けている印象です。私にはその僅かなベール感がややもどかしく感じられました。ただ、楽器の最高域部の倍音を意識して聞いている人はあまり多くないので、ほとんどの場合気にならないと思います。

バイオリン、チェロ、コントラバス、の3パートが2.5パートくらいに若干混濁する感じはありますが、元々このディスクの録音の悪さ（混濁感）も大きく影響しているはず。チェロとコントラバスの分離は標準的で演奏自体は大きく躍動し、楽音の分離や音の広がりもこの価格帯では水準を超えと思います。

・CD レイヤー

SACD に比べ高域の伸びやかさ、透明感が若干失われますが、中低音の厚みが増し、全体的なバランスはSACD よりむしろ向上して感じられます。

SACD ではややマスキングされるイメージを伴ったバイオリンの弓使い（ボーレート）がよくわかるようになり、ヒラリー・ハーンが奏でている弦が「第何弦な

のか？」その質感の違い、また弦を滑る弓のスピードと圧力の変化もきちんと伝わりました。チェロとコントラバスの分離感も向上しました。

最近特に注意しているのが、音楽再現のバランスです。デモンストレーションで良くありがちですが、一部の楽器の音が明確すぎると演奏全体の雰囲気損なわれます。Jazz や POPS などの音楽ではそれも「あり」なのですが、交響曲ではすべての音が良い意味で「均一」に再現されるのが非常に重要です。バランスは SACD よりも CD が上回り、演奏の構成精度や躍動感は SACD よりもむしろ CD の方が良く感じられました。

HOLLY COLE TRIO" BLAME IT ON MY YOUTH" Smile



ウッドベースの音は低域方向への伸びやかさが若干不足気味ですが、弾力的で厚みがあり魅力的です。ホリーコールの声にもしっかりした厚みがあり魅力的です。

今までの試聴で感じた「最高域の伸びたりなさ＝マスキング感」はまだ少し残っているのですが、Jazz ソースの場合それが中域に厚みを持たせ楽曲を魅力的に再現するのに一役買っています。

ボーカルのデリケートな表情の再現性はもう少し欲しいと思いますが、レコードを聴いているような弾力的で厚みのある音質は 14S1 の魅力的な特長です。バランスの良い MM カートリッジでレコードを再生してい

るイメージでホリーコールが聞けました。

試聴後感想

SA/PM15S2 の上級高級モデルとして発売が開始された SA/PM14S1 は、marantz フラッグシップモデル SA/PM11S3 から基本回路を踏襲しています。SA14S1 と PM14S1 は同じ価格ですが、SA14S1 の方が SA11S3 に音質に近い感じを受けました。もちろん価格がかなり違うので両者の比較は余り大きな意味はないのですが、SA14S1 はこの価格帯の CD プレーヤーあるいは SA15S2 と比べて、かなり音が良い印象です。透明感と密度感が高く、音の質が上質です。滑らかで雑味のな

い音質ですが、中低域にもシッカリした厚みがあり上級なシステムと組み合わせても役不足ではない良好な音質が実現しそうです。

PM14S1 を PM11S3 と比べると中低域の厚みがやや薄く重厚感や雰囲気濃さで譲りますが、20 万円前後で購入できるプリメインアンプと考えれば、良好な音質だと思います。今回のテストでは、中高域に少しざらついた響きを感じました。これは最近の marantz 製品に見られる傾向で、フィードバック回路に使われてい

る小さなフィルムコンデンサーの共振音です。今回テストした PM14S1 はまだ鳴らし込みが十分ではなく、フィルムの「鳴き」がやや耳に付きましたが、これまでの経験からもう少し鳴らしているとかなり緩和されると思います。

PM14S1 は明るく元気な音質で、Classics だけではなく POPS や JAZZ も気持ちよく鳴らせるアンプでした。

プレーヤー CEC 音質比較 CD3N

世界で唯一！外部クロック入力に対応したベルトドライブ方式 CD プレーヤーが誕生しました。

先に発売された TL3N に DA3N の主要部分をドッキング、内部で接続したものが TL3N の基本構成です。しかし、電源部分の強化、スタビライザーの大型化など TL3N では実施されていない新たな技術が投入され、さらなるブラッシュアップが施されています。

デジタル出力：同軸（RCA）、AES／EBU（XLR）、光（ST）の3系統。外部クロック入力：BNC（周波数 44.1kHz）1 系統。アナログ出力は、RCA/XLR 各 1 系統が装備されています。世界で唯一！クロック入力まで備えるベルトドライブ CD プレーヤーはこの価格で、海外 100 万円クラスの CD プレーヤーの音質に迫ります！

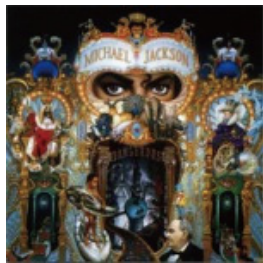
CEC CD3N

希望小売価格 ¥ 300,000

アナログ出力：RCA×1、XLR×1 ●
デジタル入力：AES/EBU（XLR）×1 ◆
同軸（RCA）×1 ◆ 光（TOS）×1 ●
クロック入力：BNC×1（44.1kHz のみ）●
サイズ：W435×H110×D320(mm) ●
重量：11.1Kg



Michael Jackson "Dangerous" 14 曲目 Dangerous



CD プレーヤーを交換するとイントロの機械音が立体的に広がり、気になっていた超高音部の角の丸さが緩和されました。それでもまだ最高音部には若干の濁りともたつきを感じますが、空間の濁り感

も低減し CD3N+PM14S1 の組み合わせで聞く音は、SA14S1+PM15S2 Master にぐっと近づきました。

CD プレーヤー同士で比較すると、CD3N は「音の鮮やかさ」で SA14S1 をかなり上回る印象を受けます。比較的色彩感の薄く変化が単調に感じられた SA14S1+PM14S1 に比べ、CD3N+PM14S1 ではその色が鮮やかでコントラストが高く感じられるからです。アンプが若干ボトルネックになっている印象ですが、音色の鮮やかさだけでなく、高音の切れ味や楽器のタ

イミングの精度、マイケルの声の変化の細やかさなども大きく改善しています。

従来の CEC ベルトドライブ方式の CD プレーヤーでは低音のもたつきや膨らみを感じましたが、CD3N はそれをまったく感じさせないばかりか、SA14S1 よりも重厚で粘りと腰のある低音を聞かせてくれます。滑らかでスムーズ。透明感の高さと音の細やかさ、鮮やかさに「ベルトドライブの良さ」が十二分に感じられました。

Hilary Hahn "Bach-Concertos" (Hybrid Disk) 1 曲目 ~



・SACD レイヤー

CD3N では、再生できません。

・CD レイヤー

ヒラリー・ハーンのディスクでも低音の出方が変わりました。SA/PM14S1 の組み合

わせで感じていた、高域の濁りや伸びたりなさも解消しています。

バイオリンは鮮やかで生々しく、良質な楽器の音に変化しました。コントラバスはパートの量感が増大し、弦の音色も鮮やかです弦の圧力（強さ）やそれぞれの音の切れ味も向上し、楽曲がより大きく躍動するようになりました。各弦楽器パートの分離感が大きく改善し、音場の広がりも拡大しました。

CD プレーヤーを変えたことによる変化は、このディスクでは大きく反映されました。SA14S1 が苦手とした録音の悪いディスクでも、CD3N が綺麗に鳴らしてくれます。クラシック、特に交響曲は録音の悪いディスクが多いので、これは CD3N の特に魅力的なポイントになると思います。



Antelope Audio OCX



AIRBOW GPS-10MH

HOLLY COLE TRIO" BLAME IT ON MY YOUTH" Smile



CD プレーヤーの交換 (SA14S1→CD3N) では、アンプの交換 (PM14S1→PM15S2 Master) ほどの透明感や重厚感の大幅な向上は実現しませんでした。音質は確実に改善

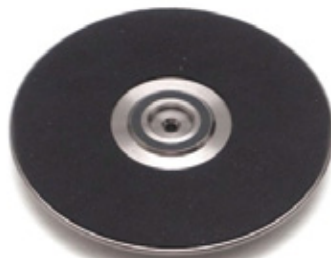
していますが、ウッドベースの高域やホリーコールのボーカルの子音には、まだ「荒れ」と「濁り（曇り）」を感じます。これは PM14S1 の癖でしょう。PM14S1 の「癖」を割り引いて考えると、ウッドベースの弾力感やピアノの響きは格段に改善し、音色が鮮に鳴っていることがわかります。ウッドベースの音は柔らかく重厚で厚みが感じられ、楽器とボーカルの分離感も向上しました。

アンプの交換 (PM14S1 から PM15S2 Master へ) では、「音質の改善」が大きく感じられました。CD プレーヤーの交換 (SA14S1 から CD3N へ) では、「色彩感と立体感」が大きく改善しました。アンプで変化の小さかった交響曲で、CD プレーヤー交換による音質向上が最も大きく感じられる結果となりました。

スタビライザーを CEC CD3N 標準品から AIRBOW STB-1 に変更



大型化された CD3N 付属スタビライザー



AIRBOW STB-1

アタックの切れ味が改善し、ウッドベースの断弦感、コンガを打つ手のひらの柔らかい感覚が明確になります。高音の明瞭度が増加して、音質が全体的にクッキリします。高音が綺麗に伸びるので、ホリーコールのボーカルの子音の濁り感も若干減少しました。

CD3N ではスタビライザーが大型化され、スタビライ

ザーの音質が改善されました。その結果、TL3N 付属のスタビライザー程標準品と AIRBOW STB-1 ほどの大きな違いはなくなりましたが、まだ STB-1 が確実に高音質です。STB-1 が CD3N 付属のスタビライザーよりも小型で軽いという事から懸念される「低音不足感」もまったく感じられません。

STB-1 を使うと全体的に音がスッキリ、クッキリして、エネルギー感が向上する感じです。クリアだけれど滑らかで力強い再現力。しばらく聞いていると、STB-1 の良さがじわじわと伝わってきました。価格を考えると STB-1 は CEC ベルトドライブ・トランスポート/プレーヤーのマストアイテムだと思います。

クロックジェネレーター (Antelope Audio OCX + AIRBOW GPS-10MH、44.1MHz) 追加

クロックジェネレーターの追加により、CD3N は S/N 感と密度感が大きく向上します。空間が大きく広がり、同時に、密度も上がりました。

標準スタビライザーから STB-1 に変えると、録音のキツイ部分でボーカルの子音が若干荒れたのですが、そ

れも収まりました。質感の向上と滑らかさ、きめ細やかさが向上し、ホリーコールの声も「最も良い声」に近づきました。

クロックジェネレーターを追加する事で、演奏の温度感が上がり感動力が強くなります。クロックジェネレー

ターを組み合わせた CD3N の音質は、AIRBOW を除く 100 万円以下の CD プレーヤーで最も細かく、最もスイートだと思います。

試聴後感想

世界で唯一のベルトドライブ・CD トランスポート「TL-0」を発売していた頃と比べると若干元気に陰りが感じられる CEC です。それは、ここしばらく CEC 製品の設計と生産を受け持っていた「カルロス・カンダイアス」とのごたごたが主な原因です。私は、カンダイアスを当初から評価していませんでした。彼が作る製品は音質はともかく、設計が独りよがりな故障が多かったからです。ユーザー (CEC も彼の顧客でした) を第一に考えるなら、あんなに不安定で複雑な回路は使わ

ないのが常識です。しかし、カンダイアスと縁が切れたことで CEC 製品の設計生産は、再び中国から完全に日本に移行しました。あの「TL-0」を作り上げた設計陣が設計し、世界に誇れる日本で作られた現在の CEC 製品の仕上げと音質のレベルは一段と向上しています。今回テストした CD3N からもそれはしっかりと伝わります。ベルトドライブの弱点といわれた「高音の甘さ (ピントの甘さ)」、「低音の膨らみ (プービーさ)」、「動作の遅さ (読み取り速度の遅さ)」をすべて解決した

CD3N は、デザインが少し「時代遅れ？」な点を除いては、すべて最新最良の CD プレーヤーの水準に達しています。

音楽ファンがこぞって高く評価したベルトドライブの「3 次元的立体感の高さ」、「高音の滑らかさ」、「アナログ的な雰囲気の高さ」をさらに高めた CD3N は、現時点で望みうる最良の音楽 CD プレーヤーの一つに違いありません。

プレーヤー Thorens 音質比較 TD206、TD209

Thorens から欧米にて数々の賞を受賞した TD309 のシリーズモデル "TD206" と "TD209" が発売されました。どちらのモデルにも DC サーボ制御モーター・ベルトドライブ方式、アルミとアクリルを組み合わせた（銀色のベルトを掛ける部分がアルミ、黒色のレコードを乗せる部分がアクリル）プラッター、Thorens 製アーム "TP90" などが共通して採用されています。仕上げは「艶あり」の赤：レッド、黒：ブラック、白：ホワイトの3色から選べます。

カートリッジ取り付け調整用ゲージと針圧ゲージが付属します。

TD206 と TD209 は「形状」だけが異なり、価格と構造は同じです（※TD206 にはダストカバーが付属しますが、TD209 には付属しません）。今回は PM14S1（内蔵フォノイコライザーアンプ使用）を使って、それぞれの音質を CD プレーヤーも交えて比べてみました。

Thorens TD206

希望小売価格 ¥179,000

方式：マニュアル式ベルトドライブ
プレーヤー●モーター：サーボ制御 DC
モーター●出力：RCA×1（ケーブル着
脱式）●回転：33-1/3、45 rpm●アーム：
Thorens TP90●カートリッジ：AT-95B
●サ イ ズ：W475×H125×D370
(mm)●重量：6.6Kg●付属品：出力ケー
ブル、ダストカバー、ドーナツアダプ
ター、AC アダプター、針圧ゲージ、他
●仕上げ：ハイグロスレッド、ハイグロ
スブラック、ハイグロスホワイト



Mine Junko "Jesse" (ダイレクトカットティング・高音質ディスク) Jesse



SA14S1 との組み合わせでは気になっていた、PM14S1 の高域のマスキング感がレコードの試聴ではほとんど感じられません。RIAA カーブによって高域がなだらかに減衰しているレコードだから

でしょうか？

ボーカルは緻密で滑らか。SA14S1 の音とは明らかに滑らかさと響きの柔らかさが違います。低音も押しつけがましくなく、豊かです。リッチという表現がピッタリと当てはまる雰囲気です。このゆったりと流れる時間の感覚はいったい何でしょう？ CD プレーヤーには感じられないリッチな滑らかさと響きの良さ。一つ一つの音の分解力ではなく、それぞれが混じり合うことで奏でられる絶妙な「味わい」。この味わいこそレコード

にあって、デジタルにないものなのでしょう。響きを響きのまま、符号に分解せずに再現するレコードならではの豊かな響きの世界。とても心地よい音です。

レコードをレコードらしくリッチに鳴らす能力にかけては、このクラスで Thorens を上回るプレーヤーは見当たらないかも知れません。Thorens ならではの響きの良さ、何とも言えない音の甘さを TD206 は引き継いぎ、艶のある塗装の仕上げも美しく価値ある製品だと思います。

Serugiu Chelibidache 指揮" 展覧会の絵" (重量盤・高音質ディスク) 1 曲目 ~



ステージ後方から立ち上るように響く金管楽器の音。リスニングルーム下方の地面からシッカリ立ち上る弦の音。CD では感じにくかった「上下方向への音の広がり」が出来ます。

最近の CD プレーヤーの解像度は非常に高いので、レコードだからといって JAZZ で感じたのと同じように、個々の音の分解能力が CD よりも優れているようには感じられません。

カートリッジをより高級な製品に変えればそれは解決すると思いますが、TD206 最大の魅力は「絶妙な混ざり具合」です。煮込まれたおでん（大阪なら関東煮）のように、複数の素材が混じり合って煮込まれること

で生まれる「絶妙の旨味」が TD206 から感じられます。低音が、高音が、…。というよりも、ただただその「旨味」を感じていたい。美味しい音を聞いていたい。そういう気にさせてくれる「旨い音」です。



Thorens Platter Mat コルク・ラバー



メーカー希望小売価格 ¥7,500

アクリル製プラッターの上に別売りのコルク・ラバーターンテーブルシートを使ってみました。明らかに S/N 感と音の分離が向上します。しかし、ゴムの制振の影響が美味しいと感じる「響き」が若干損なわれる印象です。そのせいかも知れませんが、音が全体的に少し「ゴムっぽく」なった印象があります。TD206 では割と良かったのですが、プレーヤー自体の響きが少ない TD209 に使った場合は、低音の厚みと量感が増す反面、中高域の響きが少なくなって HiFi 方向への変化が行き過ぎる印象を受けました。

Thorens Platter Mat コルク



メーカー希望小売価格 ¥8,500

ゴムを含まないコルクのターンテーブルシートは、音が明るく開放的です。高域は響きがやや強く、倍音がきらびやかです。音の広がりも自然で、楽器の音も伸びやか。コルク＆ラバーが持っていた重厚感が失われますが、晴れ晴れしく空気が乾いて感じられます。標準ターンテーブルを中心に、やや音を暗く重くしたいときは「コルク＆ラバー」、やや音を明るく軽くしたいときには「コルク」。音を大きく変えるのではなく、その音調をコントロールする。巧妙に作られたターンテーブルシートです。



Thorens TD209

希望小売価格 ¥179,000

方式：マニュアル式 ベルトドライブ式
プレーヤー●モーター：サーボ制御 DC
モーター●出力：RCA×1（ケーブル着脱式）●回転：33-1/3、45 rpm●アーム：Thorens TP90●カートリッジ：AT-95B
●サイズ：W470×H125×D430 (mm)●重量：4.3Kg●付属品：出力ケーブル、ダストカバー、ドーナツアダプター、AC アダプター、針圧ゲージ、他
●仕上げ：ハイトロスレッド、ハイトロスブラック、ハイトロスホワイト

Mine Junko" Jesse" (ダイレクトカットティング・高音質ディスク) Jesse



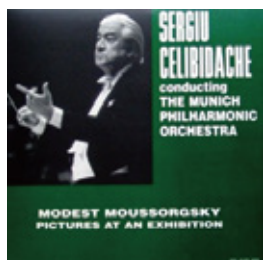
TD206 と TD209 は「筐体の形状」が異なるだけの兄弟モデルです。しかし、その音は明確に違いました。針圧を同じにして、同じレコードを聴いても、TD209 は TD206

よりも「響き」が少なく、透明感と音の細やかさが勝ります。カートリッジに「個体差（同じモデルのカートリッジが装着されています）」がないとすれば、TD209 は TD206 よりもワンクラス上の音質と雰囲気を持っていると断言できます。「絶妙な混じり具合」が魅力だった TD206 に比べ TD209 の音は響きが少なく、聞き慣れた CD に近い雰囲気です。しかし、ボーカルの滑らかさや艶、あるいは

はウエットな質感はレコードならではのものを持っています。ピアノの美しい響きの鮮やかさ、滑らかさ高い質感もアナログ独特の味わいです。

TD206 はやや解像度が甘く「濃い」音でした。TD209 はそれよりも明らかに解像度が高く「知的でスッキリした音質」です。高性能プレーヤー Nottingham の音が好きな私は、よりその音に近い TD209 が好みです。

Serugiu Chelibidache 指揮" 展覧会の絵" (重量盤・高音質ディスク) 1 曲目 ~



イントロ部のトランペットの響きが繊細で、エコー音が長く響きます。また、唇と指の動きまでわかるような明快でデリケートな変化は TD206 では感じられませんでした。弦楽器の分解能も高

く、展覧会の絵を聞いても TD209 はより CD に近い知的な味わいを持っていることがわかります。TD206 は長方形の大きなキャビネットとダストカバーの共振によって、「絶妙な響きの混じり具合（濁り具合）」を生み出したのでしょう。響きにくい異形のキャビネットを持ちダストカバーのない TD209 にはその共振がなく、音質はよりストレートで明快です。しかし、それでもデジタルとは違う「レコードならではの艶」を持っています。

TD206 で感じられなかった「チェリビダッケならではの緊張感」が、TD209 ではしっかりと伝わります。原音に近く明らかに音が良いのは TD209 に違いありません。しかし、よりレコードらしいのは TD206 かも知れません。まったく同じ「機構」を使いながら「キャビネットの違い」だけで、この音の差を作り上げる Thorens はさすがに「響きの使い方」をよく知っています。信頼できる熟練のサウンドを感じました。